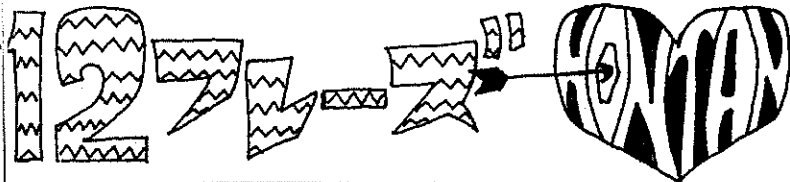


HONTAN

図書館ボランティア「本探」が 第4号
 2009年 12月1日号
 旬の図書館情報をお知らせします

およよ
 情報がいっぱい



2009年も終わりの12月。今年も除夜の鐘を聞くかわりにこれを読んで年を越せ!? HONTANメンバーが「こいつはやられた!!」と脱帽した。ぐっとくるセリフを抜粋しました。

卯月の サンテグジュベリ 953/S
 ぐっとくる 『星の王子さま』
 「かんじんなことは、目にはみえないんだよ」
 王子様と別れる狐が最後に王子様に送る秘密です。

漁火の 本多 孝好 913.6/H
 ぐっとくる 『MISSING』
 「蝉があんなにうるさい声で鳴くのは、きっと一夏しか生きられないからなんだだろうねえ」(蝉の証より)
 長い時を生きた、主人公の祖母の言葉の重み。

とおかの 夏目漱石 913.6/N
 ぐっとくる 『こころ』
 「しかし君、恋は罪悪ですよ。わかっていますか。」
 この言葉の裏に隠された、先生の過去とは。

きゅうの 野中ともし 913.6/N
 ぐっとくる 『ぴしゃんちゃん』
 「そこに行けるってことは、たぶんその、帰ってこられるってことだろ?」
 一滴のしずくに一言。

Anneの 香山リカ 146.8/K
 ぐっとくる 『弱い自分を好きになる本』
 「...弱さこそ、あなたの最大の魅力であるやさしさにつながっているんです。」
 発想の転換。

花漣の 伊坂幸太郎 913.6/I
 ぐっとくる 『モダンタイムス』
 「人生は要約できねえんだよ」
 作中に登場する作家、井坂 好太郎の言葉。

職員卵の エミリ・プロンテ 岩波文庫
 ぐっとくる 『嵐が丘』 933.6/B
 「君を忘れるほどなら、ぼくは自分を忘れるだろう」
 恐いほどに強い愛。
 ヒースクリフに完敗。

なのかの スアド 289/S
 ぐっとくる 『生きながら火に焼かれて』
 「男の人と話している。殺されてしまうわ。」
 恋をしたら殺される。ファンタジーのようなフリーズのノンフィクションです。

N川の 池田晶子 104/I
 ぐっとくる 『14歳からの哲学』
 「当たり前のごとくに気がつくって、それだけですごいことなんだよ」
 優しくして強い。
 ハッとする一文。

ななちゃんの 村上春樹 913.6/M-1
 ぐっとくる 『ルルウェイの森(上)』
 「今日は北極熊がお星様を食べたから明日は雨だ!」
 何気ない場面に書かれる魅力的な言葉。

舞の 金城一紀 913.6/K
 ぐっとくる 『レガリューション No.3』
 「俺は、本物の『勝ち』を手にしてえんだ」
 世界一ばかで、世界一素敵なお高校生ヒーローの一言。

ちゅんの 茨木のり子 911.56/I
 ぐっとくる 『自分の感受性くらい』
 「自分の感受性くらい/自分で守れ/ばかものよ」
 人に流されず人のせいせず生きることの大切さを教えてください。

HONTAN 展示 みつけて
企画展示紹介
 今回の展示は、来る12月の「クリスマス」をテーマに掲げ制作しました。世界の国々、それぞれの特徴を感じて頂くことができたなら、制作者として嬉しく思います。あなたの気になる国では、どんなクリスマスが催されているのでしょうか? さあ、さっそく展示ブースで確かめてみましょう。 企画者: ななちゃん、卯月、漁火

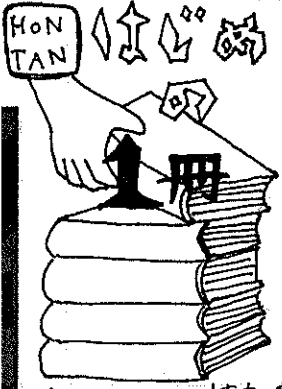
HONTAN 雑誌の書評を 紹介
Pick-up MAGAZINES
 それでも読み終えた時には、穏やかな気持ちになります。作者自身、「自分が作り出したキャラクターなのに憧れも感じる」と、誌面で語っています。こたつとみかんのお供に☺
 ⇒ 『横道 世之介』 吉田修一 著 (913.6/Y) 舞

papyrus 12月28日号(第5巻第6号)
 「親本のう り本のう」 316ページ
 「こんな大学生、いるいる。」
 と、思わずつぶやいてしまうほどの、ごく普通の主人公。

Report★ 11月6日 金曜日に、図書館講演会を行いました。講師にお呼びしたのは、出版社「亜璃西社」代表 和田由美さん。北海道の文化を追い続ける和田さんの貴重なお話を頂きました。当日来てくださったみなさん、ありがとうございました。

館長さん情報

館長さんは、美食家。お寿司や生がきなど、日本の食べ物ばかりでなく、イギリスやオーストラリアなどの、少し変わった食文化にもチャレンジしているそうです。



アラフォーのツキコさんは、ある夜居酒屋で高校の時の先生に出会う。ツキコさんは『センセイ』とお酒を飲みかわし、肴をつつきあい、キノコ狩りや花見に行ったり、そして島へ旅行に行ったり。少しずつ変わっていく2人を、繊細に描く川上弘美の代表作。

年が30くらい離れている2人が、どのようにして心を通わせ、恋に落ちていくか...読み返せば『読み返すほど』

川上弘美
作品を
読み始める
なら
『センセイの靴』
(913.6/K)

また新しい一面が見つかります。一応続編である『パレード』には、お付き合いをし始めて、また少し関係が変わった2人が描かれています。読み終えるたびに温かな何かが心に満ちる、数少ない作品です。ちなみに谷ロジロー氏によってコミカライズもされていますよ。

コラム 漁火の本探力

No.1 函館

開拓され百数十年の月日が経ったこの北の地に、冬の足音が聞こえてきました。今回のコラム連載では、そんな北海道の“都市”に焦点を当てて参ります。第1回目は「函館」。ご存じの通り、江戸時代の開港場や箱館戦争を始め、数多くの史跡・有名人を擁し輩出してきたこの地を知るためには、『燃えよ剣』ほか、歴史小説「Hakodate ゆうゆうガイド」などがおすすめです。冬、再び、白く染まるかの地の夜景を、脳裏に浮かべ、想いを馳せるのもまた一興がもたせません。

スリッポ
フルマン 著
『黄金の羅針盤』
933.7/P-1

今月の1冊

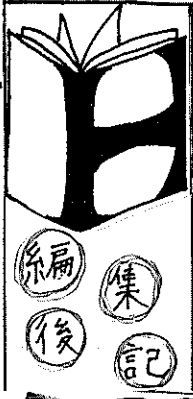
ハリ・ポッターの最終巻も読み終えて一段落。そろそろ新たにファンタジーを読みませんか。スリッポ・フルマン「ライラの冒険シリーズ」は3部作。オックスフォード大学のジョーダン学寮で育った、おてんばで負けず嫌いの少女ライラ。ちょっとしたいたずら心から、入ってはいけない奥の間に忍び込みます。そこで耳にする、ダストの謎とは？一方、街のあちこちでは、見えざる人さらい「ゴブラー」によって子ども達が連れ去られていた…。あらゆる嘘をつき、黄金の羅針盤をあやつって、大人たちを出し抜け!! 冒険の先で出会う、強く勇敢なゴブレンたち、偉大なるクマの王イオレク、バーニン、ライラのおじ、アスリエル卿のくわだて、そして明かされる、ライラの生い立ち、運命、裏切り…。真理を示す黄金の針の指す先が気になって仕方ない! 何よりライラが可愛くて目が離せません♡



2009年8月～2009年10月まで
予約の多い作品ベスト5です。

順位	書名	著者	予約数
1	IQ84	村上春樹	1:7件 2:5件
2	贖罪	湊かなえ	6件
3	ハリ・ポッターと死の秘宝	J.K.ローリング	上:3件 下:4件
3	告白	湊かなえ	4件
3	聖女の救済	東野圭吾	4件

注目の村上作品が1位! 根強い人気の湊作品も必読です。



今回のHONTAN12フレーズは、「こいつはやられた」ということでしたが、普段本を読んでいるときは「うわ、こういうことか!」という感想を持っていたのですが、いざテーマとして出されると、意外に思いつけないものですよ。ところで、皆さんは「こいつはやられた」という本を今すぐに考えられますか？